

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果について ①

平成 28 年 10 月 27 日
第 20 回教育委員会資料
教育部指導課

I 調査の概要

- 1 調査の目的
- (1) 教育委員会は児童・生徒の学力の定着状況を把握し、教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす。
 - (2) 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題及び解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
 - (3) 教育委員会は、市民に対し、立川市内の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。
- 2 調査日時
平成 28 年 4 月 19 日（火）
- 3 調査の対象学年（悉皆調査）
○小学校第 6 学年 ○中学校第 3 学年
- 4 調査内容
- (1)教科に対する調査
- ◇〔国語 A, 算数・数学 A〕
主として「知識」に関する問題
 - ◇〔国語 B, 算数・数学 B〕
主として「活用」に関する問題
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査
- ◇児童・生徒質問紙調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◇学校質問紙調査
 - 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

II 実施学校・児童生徒数

1 小学校	学校数	児童数
	20 校	1406 人（実施率 98%）
2 中学校	学校数	生徒数
	9 校	1160 人（実施率 95%）

III 教科に関する調査結果の概要

◇ 市の教科別平均正答率（%）

	国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	71.8 (72.9)	57.3 (57.8)	77.7 (77.6)	47.0 (47.2)
中学校	76.9 (75.6)	68.2 (66.5)	63.6 (62.2)	45.2 (44.1)

__は都平均正答率、（ ）は全国平均正答率

IV 授業改善の視点

- 1 小学校 〈国語・算数〉
- ・各教科等の学習を通して、目的に応じて、非連続テキスト（図表やグラフなど）から必要な情報を取り出し、比較したり関連付けたりして、自分の考えを表現する場面を意図的・計画的に設定する。
 - ・基準量・比較量・割合の関係を確実に捉えさせる。（比較力÷基準量＝割合、基準量×割合＝比較量等）
- 2 中学校 〈国語・数学〉
- ・各教科等の学習を通して、連続テキストや非連続テキストなどの複数の情報から目的に応じた情報を読み取る場面を意図的・計画的に設定する。
 - ・問題解決的な学習の充実を図り、課題解決の手だてについて考えさせ、適切な手だてを選択できるようにする。
 - ・様々な課題について、課題解決のために数学を活用して課題解決を図る場面を意図的・計画的に設定する。（学習と生活の結合）

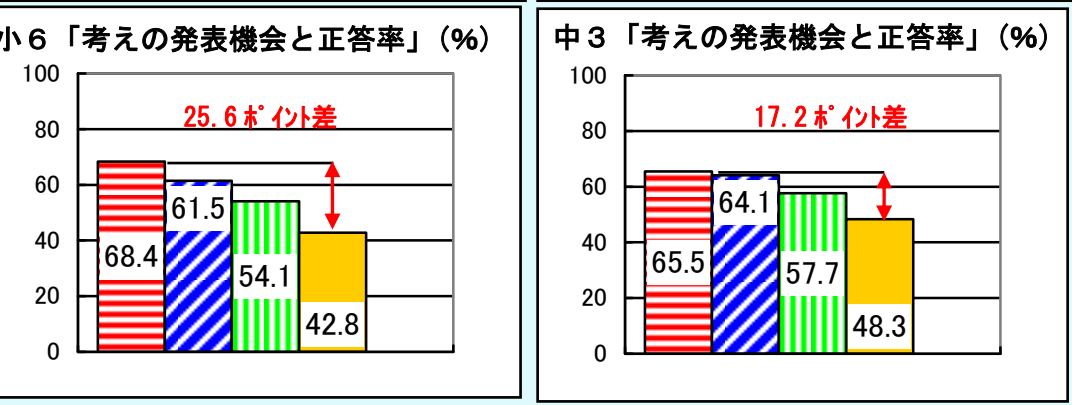
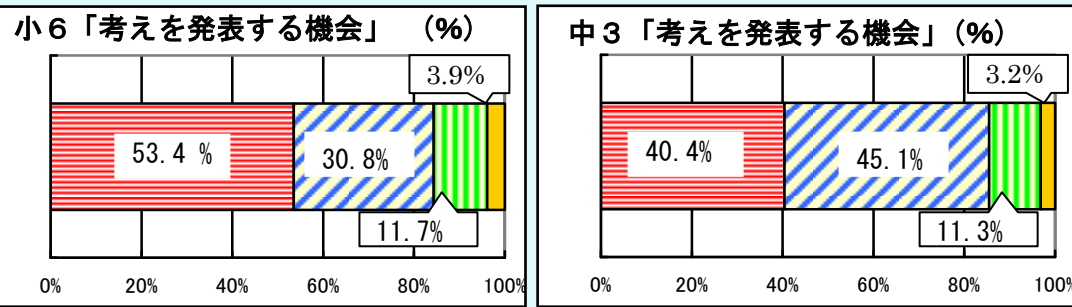
VII 調査問題及び結果に基づく立川市教育委員会の取組

- ◇ICT教育の充実 ◇ネットワーク型学校経営システムの推進
- (1)学カステップアップ推進事業及び補習教室等の充実 (2)立川スタンダード20を活用した指導・助言の推進 (3)各種学力調査の分析結果を踏まえた授業改善のポイント（リーフレットの作成・配布）の明示 (4)「家庭学習推進リーフレット」の作成・配布

V 児童・生徒質問調査結果から〔思考力育成の視点から〕

◇「授業では、自分の考えを発表する機会がありますか」という質問に対して「ある」と回答した割合と、その正答率〔2教科平均〕との関係

※ 左から児童・生徒の回答内容 「ある」 「どちらかという、ある」 「どちらかという、ない」 「ない」の順に並んでいる。



VI 学校質問紙調査結果から〔カリキュラム・マネジメントの視点から〕

◇「指導計画の作成について、知識・技能の活用に重点をおいて作成している」という質問に対して「している」と回答した学校の割合

※ 左から「よくしている」、「どちらかといえば、している」、「あまり、していない」、「全くしていない」の順に並んでいる。

